

NAIS Journal Vol.18

発刊に際して

一般社団法人日本応用情報学会会長

高 弘 昇

京都情報大学院大学 教授



現代の情報化社会が生み出しているビジネスに関わる多様な問題を解決するため、情報技術が積極的に使われています。また、ビックデータ (Big Data) との関係からビジネスでの生かし方まで関わるデータサイエンス (Data Science) 分野において、インターネット上に山ほど蓄積されたビックデータを活用する IT 技術の進歩は現社会の人々の生活を急速に変革させています。

最近、対話形式で人間の質問に回答するジェネレーティブ (Generative) 人工知能 (Artificial Intelligence; AI) の開発が活発に行われていると同時に AI の開発に必修的であるデータセンターも拡張しています。応用情報分野ではインターネット速度の高速化によりあらゆる産業分野のビジネス環境に迫ってきた急激な変化に対処するため、AI などの IT 関連技術を変化の状況に合わせて開発し、適切に展開させていく必要があります。

言い換えれば、現在の情報化社会ではデータ解析力量を基に多様な社会的変化を理解することによって、多様なビジネス問題に対する解決策を見つけ出す創造的な力量を備える必要があります。最近、多様なビジネス分野においては適切な分析ツールを活用し、ビックデータの分析能力を備えている人材が要求されています。今後の情報化時代の多様な分野において、このような革新的な力量を身に着けた人材の代わりに AI が未来志向的に必要不可欠な実践として問題の解決に寄与できるものと考えられます。

グローバルな社会の情報化環境において、データサイエンス分野での AI などの必要な IT 技術の発展は持続的に行われていきます。特に、未来志向的な情報化社会では常に必要な情報にアクセス可能な環境の下で社会的各種ビジネス問題に対する対処能力として IT 技術は持続的に必要に応じて開発されていくと思われま

現在のビジネス環境において大きな影響を及ぼしているデータサイエンス、人工知能、モノのインターネットなどの IT 関連技術が第 4 次産業革命に沿って互いに密接に関連しながら大きなビジネス効果を生み出していることから大きく注目されています。その反面、企業は激しいビジネス競争環境において、競争優位に立つための関連人材の確保、関連 IT 技術の確保、関連ビジネス情報の獲得などの対応に追われています。また、ビジネスにおける産業構造が製造業からソフトウェア・サービス産業へと急速に移行することにより、情報関連の応用分野も必要な人材が大きく不足しています。すなわち、多様化されていく情報関連ビジネス環境に対応できる核心人材を確保するためには実践的な情報関連育成訓練に重点を置いた教育を展開する必要があります。

一般社団法人日本応用情報学会 (Nippon Applied Informatics Society; NAIS) は社会の各分野で適用・応用されていく IT 関連技術の発展のため、日本国内で専門誌 NAIS Journal の発行、IT 関連研究会・セミナー開催などの多様な活動展開を通じて応用情報技術の普及に渾身の力を込めるだけでなく、実学志向的な実践団体の産学学会としてその役割を果たしてきました。共に、日本応用情報学会は、実務系団体と緊密な連携を持ちながらデータ分析を中心にしたデータサイエンス関連などの技術開発活動を行い、グローバルビジネス環境において企業が必要とする人材の育成に力を入れてきました。また、情報技術を取り巻くビジネス環境に役立つ有用な情報を関係研究者、産業界の技術者などに発信すると同時に、産学専門家が研究開発し実装した成果物を関係する多くの人々に示す場を提供するため、専門誌である NAIS Journal を産業界に積極的により幅広くオープン化して発刊しています。

日本応用情報学会はこれからも産学学会として各分野における実学志向的な応用情報技術に関わる多様な活動の内容及び成果物を多くの関係者にウェブサイトと NAIS Journal などを通じて発信し、有効的に共有していきます。また、研究・実践活動で発生しうる様々な応用情報技術課題に対応可能な関連情報を積極的に発信し続けていきたいと考えています。

今後も日本応用情報学会は応用情報技術により急速に変わり続ける厳しいビジネス環境において、企業が必要な競争力を基に持続的な成長ができるようにデータサイエンス、人工知能、第 4 次産業革命に関わる人材育成、応用情報システムの研究、開発及び実践に積極的に貢献していきたいと考えています。